

補聴器選びは慎重に

「値段高い」「聞こえない」「増える苦情

「補聴器を買ったが高くて支払えない」「期待したほど聞こえない」など、補聴器に関する相談が年々増えている。国民生活センターは、補聴器の購入前には専門医に相談し、専門知識を備えた販売店で購入するよう呼びかけている。
(貝沢貴子)

補聴器は医療機器で、耳掛型、耳穴型、ポケット型などがある。日本補聴器工業会によると2013年の出荷台数は約53万台。高齢化や補聴器の性能向上により、出荷台数は増えている。

相談の多くが高齢者だ。埼玉県の70代男性は家電量販店で5万円の補聴器を買った。まったく聞こえないため返品に行ったところ、より高性能の25万円の補聴器を薦められて購入したが、結局聞こえないという。

一方、補聴器をめぐるトラブルも年々増加。国民生活センターによると、12年度の補聴器に関する相談は529件で、03年度の237件に比べて10年間で倍増している。宮城県の60代女性はサン

グラスを買いに訪れた眼鏡

認定補聴器専門店



公益財団法人テクノエイド協会

専門知識を備えた「認定補聴器技能者」が常勤する「認定補聴器専門店」のステッカー

まず耳鼻科受診し状態把握

店で補聴器を薦められ、両耳で約50万円の補聴器を購入。その後、病院で診察を受けたところ「補聴器は使えない方がいい」と言われてしまった。

国民生活センターは「販売店側が十分な知識や技能、サービス体制を備えていない場合がある」と指摘、専門知識を備えた販売店で購入するよう勧める。消費者が安心して相談できるように、公益財団法人「テクノエイド協会」では補聴器の専門知識を備えた「認定補聴器技能者」を養成。技能者が常勤する補聴器販売店を「認定補聴器専門店」として登録している。

購入者側の意識も大切だ。同センターによると、自分の耳の「聞こえ」の状態を把握していないまま購入するケースや、高齢者が1人で販売店を訪れて補聴器について十分理解しないまま購入しているケースがあるという。

補聴器販売の岩崎電子(札幌)専務で、日本補聴器販売店協会北海道支部長

専門知識備えた店で購入を

を務める岩崎充佳さん(48)は「購入前にはまず、耳鼻科の診察を受けてほしい」と勧める。補聴器を使わなくても、病院の治療で耳の聞こえが改善する場合もあるという。

また、岩崎さんは「補聴器はあくまでも聞こえを補う物。きちんと使えば補聴器の効果を実感できるが、聴力が元通り100パーセント戻るわけではない」とを理解してほしいと話す。騒音がある環境では聞き取りに限界があるなど補聴器の特性を知った上で、使用することが大切だ。

岩崎さんは「ゆっくり区切って話したり、補聴器使用者の正面から話しかけることでより聞き取りやすくなる。補聴器をスムーズに使うため、本人だけでなく家族や周囲も補聴器について知ってほしい」と話している。

道内の「認定補聴器専門店」は岩崎電子を含めて約30店。詳細はテクノエイド協会のホームページ(<http://www.techno-aids.or.jp/>)か同協会03-3-2666-68882へ。